「この人 48」

高田敏男 65歳 兵庫県

編集部 俳句を始められたのは？

高田 十五年ほど前、地元姫路の好古園で俳句募集に投句をして、佳作に選ばれたことがきっかけです。「初しぐれ長屋門にも旅の人」という句でした。翌年も、「客の声受けて答えて松手入」の句が入賞しました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

高田 滑稽俳句を始めましたのは、十年くらい前です。洒落っ気のある言葉が好きで喋れば五七五になっていましたが、俳諧味とでも言うのでしょうか作り事ではなく本当の可笑しさがありますね。肩の凝りも解れるような上質の可笑しさです。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

高田 月刊総合俳句誌の「俳壇」で、有馬朗人先生に「万愚節時刻通りの汽車が来る」で年間賞をいただき、八木会長の「微苦笑俳壇」では年間賞を二回もいただいたことです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

高田 気持ちに、ゆとりのあることが大事ですね。そういう時、偶然出来るように思います。

【代表句】

先輩を渾名で覚え新社員
帰省子や東京なまり抜けきれず
切られ役主役を切つて村芝居
雀荘や夜業で学ぶ中国語
バカの数踏んで人生文化の日

*お詫びと訂正

10月号の会報に、「万愚節時間通りの汽車来たる」と掲載しておりましたが、正しくは、「万愚節時刻通りの汽車が来る」です。訂正し、お詫び申し上げます。